世界の学校79

台北の今

台北日本人学校　登内　恭平

【コロナ後の台北】

台湾で有名は夜市に出かけると，あちらこちらから日本語の声が聞こえてきます。コロナが猛威を振るい，観光業に大きな打撃を与えたこの数年間を埋めることはまだまだできていないようですが，少しずつかつての賑わいを戻しつつある台北です。私が感じる台湾のよさを二つ紹介します。一つ目は積極的なコミュニケーションが多いことです。外国の方と話すことに臆することなく，言葉で伝わらなければジェスチャーを使い，それも無理なら誰かを呼んで…とあらゆる手段で，伝えることを大切にしています。私も困っているところに声をかけてくれたことでどんなに助けてもらえたことか。海外生活の不安が和らぐ瞬間です。二つ目は，「没關係（メイグワンシー）」の文化です。「まあなんとかなるよね」という寛容な雰囲気と言い換えられると思います。うまくいかないことや，間違っていても，まずは「没關係」と言ってくれる台湾人の優しさは，みんなが穏やかな気持ちで生活していくための基盤になっているのかなと感じています。

昨今，日台友好がフォーカスされることがあり，日本のニュースにもなっていると聞いていますが，私の勤務している台北日本人学校も日台友好の懸け橋の一部を担っていることを日々実感しています。

盛大に行われる夏祭り

【コロナ後の台北日本人学校】

さて，台湾には日本人学校が三つあり，私が勤務する「台北日本人学校」は，台湾の政治経済の中心地である台北にあります。現在の校舎は，台北の中心から少し離れた北部の天母地区にあり，2021年度より新校舎での授業がはじまりました。

新校舎のコンセプトは「つながる学校 ～子どもたちが楽しんで通う学校～」です。

①様々な学びにつながる

学校図書館の機能以上の情報の場であり，学びの場となっているメディアセンターが本校の大きな魅力の一つです。各教室からアクセスしやすい教室棟の中心に設け，国際理解やメディアを活用した学習の拠点となっています。また，定期的にイベントが開催され，児童生徒の憩いの場にもなっています。

②世界につながる

少人数で学ぶ外国語専用教室を設置して，小学校１年生から充実した英語と中国語の授業を実施しています。また，茶道体験や夏祭りなどの活動を通して日本文化に親しみます。そのうえで台湾の子どもたちと行う交流は文化の違い，多様性に触れるきっかけとなっています。

③未来につながる

全館に高速 Wi-Fi を整備した新校舎では，どこからでもストレスなくインターネットにアクセスできます。タブレット端末を使用することで場所や空間を選ばない授業内容の幅が広がります。全教室にプロジェクターを設置して，授業内容や成果を共有・発表するなど，ICT 機器を使った主体的で対話を伴う学習に取り組んでいます。

このような新校舎のコンセプトにも負けない先生方の熱意に日々多くのことを学んでいます。先生方の中にも様々な考えがありますが，「児童や生徒のよりよい学び」という大きなゴールに向かって，私もその一員として日々精進しているところです。

台湾の春節にも観光客が戻ってきました

メディアセンターの風景

新校舎の昇降口